

ADVERTISING FEATURE

編集特集

「創造性を刺激する〈クリエイティブ系オフィス〉」連動
広告企画

オフィス最前線2024 夏

オフィスやワークプレイスの需要が増し続けています。
質の高い仕事をなすためにはよい労働環境が不可欠であることは自明ですが、
リモートワークの一般化に伴い、働く場と住まいの境界が曖昧になりつつある中、
社員を集め、かつ離れないようにするための場を各社は必死に創造しています。

本企画では、さまざまな働く場の事例紹介に加え、
働く場に用いられる製品やサービスなどを紹介します。

※価格は税込金額です。

※掲載製品に対する資料請求は、
ネットからご請求いただくと早くて便利です。
<https://www.shotenkenchiku.com>
「コンテンツ」→「メーカーカタログ請求」



※ウェブメディア「id+」でも
記事をご覧ください。
<https://www.shotenkenchiku-plus.com/>



無印良品らしさのあるオフィスのつくり方

良品計画 空間設計部



良品計画は2024年2月に本社を移転した。「無印良品」が西友のプライベートブランドとして始まった、1980年以来の“創業の地”である東京・池袋を初めて離れた。同社は2021年から「第二創業」をうたい、改めて原点を見据えた経営戦略を執るとともに、無印良品以外の事業も進めている。空間設計事業はその一つで、無印良品でフォローしてきた衣食住から、“暮らし”をさらに広げて捉え、「家・オフィス・商業・公共」と社会におけるさまざまな場所づくりを手掛けている。会社や人員の規模に応じたスペース確保、従業員間コミュニケーション・交流の不足、コロナ後のワークスタイルの変化といった、企業にある一般的な問題も解消しつつ、会社そのものも変わりゆく中、器であるオフィスも見直されたことになる。新オフィスは同社空間設計部が手掛けた。はたらく場であるオフィスも“暮らし”の一部であると捉え、“暮らす”側の視点から研ぎ澄ました。オフィスというハコを綺麗につくることにとらわれ過ぎず、無印良品

の『これでいい』というコンセプト同様に、過度な主張をやめ、パッケージやブランドに惑わされない、シンプルかつ合理的で、普遍性のあるデザインがなされた。「集中する」「集まって話す」「リフレッシュする」という三つの営みがしやすいよう、1300坪のフロア面積を生かした、壁のない大空間を部署ごとのグループアドレスで自由に使うというのが基本。ビルの設備コアで東西に分け、web会議などのブース、大テーブル、丸テーブルなどが配される。コア側から開口部側に向かって、緩やかに人の密度感が薄まっていくようなイメージだ。オフィス内は、2023年秋から展開が始まった無印良品のプロフェッショナル向け商品が用いられており、家具・什器・備品のおよそ99%は自社製品という。特に、店舗用什器の鋼材を転用した角パイプテーブルは、ミニマルな構造で強度もあり、パーティクルボードの天板もあってオフィス然とした雰囲気がない。電源タップもスマートに収納して

「良品計画 本社(飯田橋)」DATA	床面積 7369.52㎡	本社勤務従業員数 約800人(平均出社率80%)	工期 2023年10月～2024年1月
--------------------	--------------	--------------------------	---------------------

株式会社 良品計画



2 3
4 5



いる。まさに『これでいい』の象徴とも言える。
 新オフィスは、同社のいう『はたらく場の環境改善』のプラクティスだ。
 『これでいい』のつくり方は、働きやすさの向上とともに無駄な資源消費をなくし、結果的にコストも低減できる。例えば、バックヤードなどこれまでデザインの手が届きにくかった、さまざまなワークスペースの環境改善にも貢献できるとする。
 “暮らし”の一部であるからこそ、無印良品において衣食住のディテールを手掛けてきた同社ならではのオフィス事業へのアプローチがある。例えば、ユニフォームの提案やアートのセレクト、オフィス内菓子の販売（現在は自社向け運用）といった、無印良品のアイテムも活用できる。空間設計部では、企業や自治体もしくは設計事務所と協働しながら、『働く場の環境改善』を進めていきたいとする。
 東京・飯田橋駅に程近い新オフィスでは、見学の予約もHPより受け付けている。写真や文章では伝わりにくい、“無印らしさ”の体感をお薦めしたい。

1 / オフィスの平面は南北に長い矩形で、中央の設備コアに挟まれたエリアを、社員が自由に使えるフリーな空間とした。物理的にも心理的にも壁をつくらず、社内外の交流やイベント休憩で活用する
 2 / 天井と床は一部を除いて、ビルの標準仕様のままとしている。必要な部分のみを新規にデザインし、廃棄や消費のエネルギーを軽減した
 3 / 来客向けのレセプション。無印良品の店舗をインスパイアし、木、金（スチール）、土（煉瓦）で構成されている
 4 / ビルの1階にはオープンなスペースが用意され、社員の交流や休憩のほか、ショールームやギャラリーのような使い方も想定。イベントなど取引先や地域社会にも開かれた空間を目指す
 5 / 移転を機に開発された、角パイプテーブル。テーブル天板は基準内であれば、さまざまな種類のを組み合わせることが可能。サイズはw1200・1800・2400×d600・900・1200×715mmの9種を用意

オープン：2024年2月1日

URL <https://www.muji.com/jp/space-design/office/>

TEL 03-6699-7323

【資料請求番号 701】

本格的にオフィスデザインに参入した不動産コンサルティング企業の総合力

ジョーンズ ラング ラサル(JLL日本)



国際的な不動産総合コンサルティング企業であるジョーンズ ラング ラサル（以下JLL）。国内でもグローバル企業や日本の大企業を顧客として、オフィス関連のプロジェクトを手掛けている。JLLは多国籍企業として出自や資本が海外というだけでなく、日本国内のデザインチームもアジア・太平洋地域の一員として、日常的に他の国・地域のチームと密接に連携しながら、業務を進めている。

今回、同社がオフィスのデザインとプロジェクトマネジメントを担ったヘンケル社はドイツに本社を置き、洗剤や接着剤などを製造・販売する世界的な化学メーカー。日本ではヘアケア用品のブランド「シュワルツコフ」でも知られる。HENKEL JAPANは2022年に資生堂の業務向けヘアケア用品の事業を買収し、国内拠点の整備として、東京のオフィスをリニューアルした。品川・天王洲にある東京本社とジャパンビューティーイノベーションハブ（研究開発施設）の二つを同時に進行。600人程度が勤務し、4フロア、約3100㎡という規模となる。

DXやリモートワークが進む中、オフィスの求心力を持続し、イノベーションやコラボレーションが促される空間づくりが志向された。全体としてABW（アクティビティー・ベースド・ワーキング）を採用。フリーアドレスを中心にさまざまなワークスタイルをサポートし、従業員の自主性や多様性を重んじたものとなっている。

東京本社オフィスには「コラボレーションスペース」として、従業員の交流、社内イベント、プレゼンテーションなど多様な使い勝手を許容するエリアも用意した。

JLLは、デザイン構築の早い段階からフル3DCGを多用、いわゆるウォークスルー動画でクライアントと提案内容を共有し、早期に判断できる体制をサポート。レイアウトの検討から、テクスチャーや色、各種造作まで3D視点の体験ベースで行うため、過誤や戻りも少なくなる。要望や修正も即座にCGに反映する。

また今回のプロジェクトでは、国際企業であるヘンケル社のデザイン

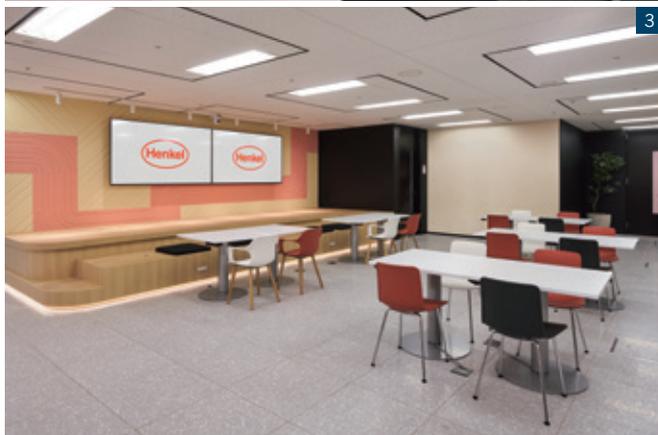
[HENKEL JAPAN] DATA	床面積 3100㎡	施設利用従業員数 600人 (平均出勤率70%)	工期 2022年4月～2022年11月	竣工:2022年11月
---------------------	-----------	--------------------------	---------------------	-------------



1



2



3



4

コードを踏まえた上で、デザインはタイ・バンコクのチームが進め、日本では現場側の調整や工事業者の入札・選定などを並行して進めた。もちろん、オンラインでのデザインミーティングで全チームが情報共有する。国・地域を跨いだコラボレーションワークがJLLでは通常のことだ。

結果、2022年4月にプロジェクトがスタートし、同年9月には本社オフィスの入居・供用が始まったという、規模に対して驚くべきスピードが実現している（全体では11月に完了）。JLLの持つ国際水準の提案力とデザインコントロール、それに施工コストやスケジュール管理までが一括して遂行されたかたちだ。

オンラインでのやり取りやCG/BIM活用、多言語でのコミュニケーションなど、個々では一般的に業務で用いられるようになってきたが、それを総合的にかつ高水準で提供できるのが、グローバルコンサルティングであるJLLの強みだ。2024年4月からはJLL東京オフィスにワークプレイスに特化したインテリアデザイナーが集結したデザイン部門、JLLデザインソリューションズが発足。JLLとしてPMサービスから設計、施工までもワンストップでオフィス関連プロジェクトに対応することが可能な体制となった。

1 / 会議室には、商品を陳列したシェルフとモニターを設置

2・3 / 「Productive home away from home,(居心地の良い第二の家)」をテーマにオフィスデザイン。従業員がオフィスに出社するモチベーションを生み出すとともに、コラボレーションスペースを中心に、イノベーションの場、知識交換の場としての役割を果たし、企業文化を形成するコミュニティハブとしても機能する

4 / 基本設計段階での3D動画検討のイメージ

5 / JLLデザインソリューションズのキックオフイベントの様子



5

オフィスに自然と溶け込むフィットネスプロダクト &MEDICAL

& MEDICAL

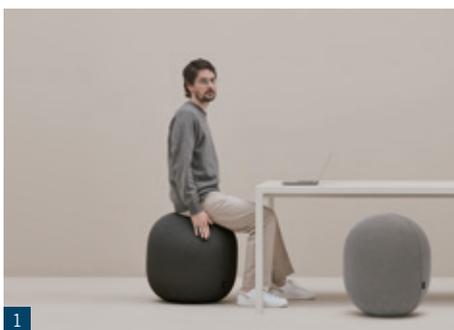


「&MEDICAL (アンドメディカル)」は、「もっと身近なヘルスケア」を目指し、健やかなライフスタイルをサポートするプロダクトブランド。エクササイズ、姿勢サポート、ストレッチなど、フィットネスに精通した専門家の知見や科学的エビデンスに基づいたアイテムを展開する。同ブランドは、リモートワークやハイブリッドワークなど働き方が変化の中で、自宅でも職場でも、日常生活の中にプロダクトを組み込むことで、自然と健康課題を解決できることを提案している。

珍しいオーバル型のバランスボール「MALLOW (マロウ)」は、一般的な球体のバランスボールよりも自立する安定感があり、スリムで場所をとらない点が特長。身体の動きにあわせて座り姿勢をサポートしながら体幹を鍛えられるため、オフィスチェアを「マロウ」に変えるだけで、仕事しながら自然とエクササイズができる。デスクワークやミーティングスペース、リフレッシュルーム、公共スペースなど幅広いシーンで活用可能だ。カバリングは、肌触りのよい上質なオリジナルニッ

ト生地4色(グレー、ベージュ、ブラック、ピスタチオ)が人気のほか、スタンダード生地2色(ネイビー、カーキ)も展開。カバーは取り外して洗濯可能なため、長く清潔に使える点も嬉しい。

電動ソファベンチ「BARS (バース)」は、リモコン1つで、フラットなベンチからシェーズ・ロング、ラウンジチェアへと形が変化する。「フラットモード」「アクティブモード」「リラックスモード」が基本設定されており、「リラックスモード」は、NASAが提唱する身体への負担が最も少ないと言われる中立姿勢を再現。心臓と膝が同じ高さになることで、無重力空間に浮かんでいるような脱力状態を生み出し、身体の各部位にかかる負荷を均等に分散する。オフィスに導入し、パワーナップ(仮眠)を設けることでリフレッシュを図り、仕事のパフォーマンス向上が期待できる。「&MEDICAL」のプロダクトは、ワークシーンに自然と溶け込みながら、ワーカーの心身をいつの間にか健康へと導いてくれるだろう。



1 / オーバル型のバランスボール「MALLOW Knit(マロウニット)」は、プロダクトデザイナーの橋倉誠氏によるデザイン。優しくフレンドリーなフォルムは、オフィス空間にも自然と溶け込む。空気を抜くことでフラットバックになるため、輸送時の環境負荷の軽減も考えられている。

2 / ベンチ、寝椅子、ラウンジチェアへとリモコン操作で簡単に形態を変えられる「BARS(バース)」。側面にUSB充電ポートを搭載。テレワークを始め、音楽や動画鑑賞などを存分に楽しめる

製品紹介 ——— Product Introduction



木の温もりが感じ良いはたらく場をつくる

日本の木でできた家具

「日本の木でできた家具」は、限りある森林資源を無駄なく活用するため、普段素材としては使われることの少ない木を活用した板を、スチールベースに載せたシンプルな構造の家具シリーズ。丸太の中心から板や柱を取る際に出る、丸みのついた辺材を無駄なく活用し、つくられた板「中空パネル」や立木の穂先や間伐材など丸太の中心で柱が取れない小径木をできるだけ無駄なく活用し、つくられた板「台形集成材」、「三層パネル」の3種類の板を基本ラインアップとして用意するほか、地域材を使った特注仕様にも対応。サイズの異なるワークデスク、ワークテーブル、ユニットシェルフ、ベンチをそろえ、快適で感じ良いはたらく場を提案する。

良品計画 空間設計部

URL◎ <https://www.muji.com/jp/space-design/product/furniture/>

電話◎ (03) 6699-7323

〔資料請求番号704〕

コミュニケーションが弾む六角形のブース

Agora

間仕切りの総合メーカー、小松ウオール工業から新たに発売した「Agora」は同時に5人まで利用できるミーティングブース。ダブルガラスやスチールパネルで構成されたブースは高い遮音性で、集中したミーティングを可能にする。前面と天井半面は開放感があふれるガラス仕様。特徴的な六角形の形状で、全員が向かい合い、コミュニケーションが弾む。カラーは空間の雰囲気に合わせ、豊富なバリエーションから選択可能。オフィスをはじめ、学校や公共施設での採用が見込まれる。サイズ：w 3000 × d 2598 × ch 2100mm。

小松ウオール工業

URL◎ <https://www.komatsuwall.co.jp/>

電話◎ (0761) 21-3131

〔資料請求番号705〕



ワンタッチでスタイルチェンジができるソファベンチ

BARS

フラットなベンチからシェーズ・ロング（寝椅子）、ラウンジチェアへとワンタッチで形が変化する電動ソファベンチ「BARS」。高反発ウレタンを採用した張りのあるシートは、体圧分散に優れ、身体をしっかりと支えてくれる。頭部から足先までゆるやかに屈曲し、心臓と膝が同じ高さになることで、まるで無重力空間に浮かんでいるかのような脱力状態を生み出す「RELAX MODE（写真）」や、オフィスでくつろぎながらのPC・スマホ作業に適した「ACTIVE MODE」、ベンチになる「FLAT MODE」の3つの基本設定のほか、背の角度と脚の高さを自分好みに調整したカスタム登録も可能。また、シート側面にはUSB充電ポートも搭載。サイズ：w 1800 × d 620 × h 370mm、価格：242,000円。

& MEDICAL

URL◎ <https://and-medical.com/>

電話◎ 0120-559-553

〔資料請求番号706〕





オフィスの音環境を改善する パーティションシステム

PRECEDE

オカムラの「PRECEDE (プリシード)」は、高い遮音性能を備えたオフィスパーティションシステム。ダブルガラスパネル連装に防音特殊フィルムを挟んだ防音合わせガラスを採用し、パネル厚を従来の70mmから130mmに上げることで、遮音性能はパネル厚70mmを大きく上回る53.2dB (音響透過損失500Hz ※実験室での測定値) を実現した。遮音性と透過性に加え、安全性 (耐震試験実証済) も併せ持ち、エグゼクティブフロアへの設置が可能に。ダブルガラスパネル・オールパネル共にSTC値55を達成し、WELL認証取得へ貢献可能な製品。また防音合わせガラスの他に、一般・特殊塗装、化粧鋼板、クロスといった素材を用いながらインテリアにマッチした表面材を用意。また、スライディングウォール「Flair (フレア)」やPRECEDEの家具シリーズとモジュール (高さ・幅) をそろえることで、統一感のある洗練されたオフィスを実現する。

オカムラ

URL◎ https://www.okamura.co.jp/office/special_site/product/precede/index.html
電話◎ 0120-81-9060

[資料請求番号707]

ハイセンスで上質なオフィスの照明器具 WAC LIGHTING モダンLED照明

デザイナーやユーザーのニーズに合わせ、洗練された照明器具を提供するEL JEWELは、世界25ヵ国、海外175メーカーとの直接取引と特注照明製作のノウハウをもって世界中のハイセンスな照明器具を展開している。写真の照明は、アメリカ・WAC LIGHTINGのモダンLED照明。WAC LIGHTINGはニューヨーク州ポートワシントンで設立され、35年以上テクノロジーの最前線での活動実績を誇る。ビジネスシーンにデザイン性の高い上質な照明を使用することで、オリジナリティーのある魅力的なオフィスに仕上がる。またCO₂の削減と同時に企業の光熱費削減をも見込める。価格は要問い合わせ。

EL JEWEL

URL◎ <https://eljewel-chandelier.com/>
電話◎ (03) 5419-7751

[資料請求番号708]



座面と背もたれの分解・再利用が可能なワークチェア

Olena

フィリップ・スタルクによるデザインの「Olena」は、ビストロで使用されていたチェアを元に新しい解釈を加えたもの。座面と背もたれを木のパーツを用いて運動させ、独創的なフォルムを実現するとともに、分解を容易にして再利用と修理の点でもメリットをもたらす。写真のアルミ製4本脚キャスタータイプのほかに、木製の4本脚とアルミ製5本脚タイプも用意。座面の幅も2種類をそろえており、ワークスペースの雰囲気にあわせて選択可能。

アンドリューワールド

URL◎ <https://andrewworld.com/en/products/seating/chairs/olena>
電話◎ (03) 6804-2966

[資料請求番号709]



オフィス空間で幅広く活用できるチェア
SEPIO

コントラクトファニチャーブランドCRESの「SEPIO (セピオ)」は、軽量でコンパクトな樹脂成型シェルを使用し、体になじむホールド感が特長のチェア。キャスターの有無も選べ、ワークスペースやミーティングスペースなどオフィス空間で幅広く活用できる。写真はC2 (張りぐるみ・キャスター付き) タイプ。サイズ:w490×d550×h770 (sh420) mm、価格:40,500円～ (張りぐるみ・キャスター付きの場合)。

パブリック

URL◎<https://www.cres-public.com>

電話◎ (052) 653-3795

【資料請求番号710】

発煙・発火が起こる前に通電を自動遮断するコンセント
プレトラックコンセント スクエア

河村電器産業の「プレトラックコンセント スクエア」は、コンセントとプラグの隙間に溜まったホコリによる火災を未然に防ぐ電気設備。コンセントプラグ間に溜まったホコリに湿気が付着すると、微小な放電を繰り返し、発熱が起こる。その際に発生する電荷ガスを検知し、自動で通電を遮断、発火を防ぐ。熱を検出するものとは違い、製品が作動後もホコリを掃除すれば継続して使用可能。掃除がなかなかできないオフィスのバックヤードや、湿気の多いキッチン、トイレなどに最適。3色展開、エアコン用も用意する。

河村電器販売

URL◎<https://www.kawamura.co.jp/>

電話◎ 090-9975-3693

【資料請求番号711】



オフィス壁面にテーブルを設置できるトライアングル棚受け
BK-TR型

スガツネ工業の「BK-TR型」は、すっきりとしたトライアングル形状のシンプルな棚受け。壁面と天板を固定するベース部と、それを覆うカバー部で構成されており、施工後にネジが見えずすっきりとした外観に仕上がる。内部は配線コードを通すことができるので、オフィスの壁面に使い勝手のよいテーブルを設置できる。カラーはステンレス調、ホワイト、ブラックの3種。サイズは3種類を用意。写真左のテーブル天板を受けているものは「BK-TR200」、1個使いで最大荷重約100kgf。サイズ・耐荷重・価格:「BK-TR200」w182.6×d201.2×h201.2mm・1000N・13,090円、「BK-TR100」w91.3×d100.8×h100.8mm・800N・3,850円、「BK-TR60」w55.3×d59.5×h59.5mm・400N・2,420円。

スガツネ工業

URL◎<https://www.sugatsune.co.jp/>

電話◎ (03) 3864-1122

【資料請求番号712】

